

教員をめざす障がいのある方々へ

所 属 職・氏 名	稚内市立稚内東小学校 教諭（特別支援学級） 榎引 秀太郎
採用年度 障がいの種別	平成 30 年度 聴覚障害

■ 教員の志望理由

教員は、聾学校に通っていた頃からの夢でした。その頃に担任だった教師の支援のおかげで、障害があってもできることが増えました。「自分もこの先生のようにになりたいな」と思ったのがきっかけでした。そのときから、担任に、「どうしたら、先生になれるの?」、「先生の学校ってあるの?」、「その学校はどこにあるの?」と毎日、先生の話聞いていたのをよく覚えています。



■ 印象に残っている教育活動・仕事など

初任1年目のときに市内の中学校ソフトテニス部監督から、「中体連に向けて、手を貸してほしい」と依頼を受けました。大会まであと1ヶ月しかない強化練習期間に自分のもっている技の技術や戦略を生徒たちに伝えたり、アドバイスしたりしました。結果、団体戦で6年ぶりに全道大会に出場することができました。自分の特技と経験を生かしながら、自校以外の生徒に関われたことや「先生が来てくれてよかった」と言われ、一緒に喜び合えたことが印象に残っています。

■ 教員としてのやりがい



学習している子どもたちが、できないことができたときや「わかった!できた!」という声や笑顔が見られたとき、「楽しい!」と学習を楽しむ姿を見られたときです。友だちとの関わり方や自分の苦手なこと、できないことなどの相談を聞いて、アドバイスした子どもから「できたよ」という姿や声を聞いたときに、教員をやっているよかったなとやりがいを感じます。

■ 今後、教員をめざす障がいのある方々へ

僕は、両感音性難聴という聴覚障害をもち、補聴器1つで過ごしています。最初は仕事がうまくいか、不安でした。でも周りの先生は優しくて、いつも支えてくれたのでその不安はすぐなくなりました。わからないことは聞く。困ったときは頼る。ただその分、自分にできることは進んで動き、他の先生が困っているときや手伝いが必要なときは積極的に関わるようにしています。障害があることで、自分にできるか不安になることは、誰にでもあると思います。でも、学校の先生には、支えてくれる人や理解しようとしてくれる人がたくさんいます。自分が教員になりたいという気持ちに自信をもって、夢をあきらめず頑張って欲しいと思います。